

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2011(平成23)年12月15日 第459号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



児童生徒の心疾患 突然死の可能性と予防



元気に生活していた子どもが突然倒れ、急死する突然死。学校管理下で起きた事例はこの10年間で567件に達する。このうち70%以上を占めるのが心臓系疾患による突然死だ。東京都学校保健会と本会が主催する第233回学校保健セミナーでは、11月4日、日本大学医学部の鮎沢衛准教授が、「児童生徒に見られる心疾患―突然死の可能性と予防」と題して講演を行った。当日は、養護教諭を中心に学校関係者や医師ら約150人が参加し、熱心に耳を傾けていた。今回はその概要を報告する。

早期発見とAEDの迅速な使用で 救命に結びつく対策の徹底を

児童生徒の心疾患の早期発見と突然死予防のために、1995年から学校心臓検診に心電図が義務化され、小学校・中学校・高校のそれぞれ1年時に実施されている。

鮎沢衛准教授(写真)は、こうした学校心臓検診の結果から見た児童生徒の心疾患の概要と、家を出てから帰宅するまでの「学校管理下」で発

今月の主な紙面

- (1面) ● 児童生徒の心疾患 突然死の可能性と予防
- (2・3面(見開き))
 - 連載 備えあれば憂いなし 第4回
 - 話題 企業におけるうつ状態回復支援 第20回健康づくり懇話会総会より
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 働く若手! 応援シリーズ 第6回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● 「いま、健康とはなにか」テーマに 第56回予防医学事業推進全国大会が開催
 - 新刊紹介/『小児のメタボリックシンドローム』
 - 産業保健フォーラム IN TOKYO 2011が開催
 - 実現可能で有効な乳がん検診システム 第21回日本乳癌検診学会学術総会



調査結果をまとめた『学校における突然死予防必携―改訂版』は日本スポーツ振興センターのサイト http://naash.go.jp/anzen/anzen_school/anzenjouhou/taisaku_sudden/tabid/228/Default.aspx からダウンロードできます

さらに、注意を要する心疾患(表)をあげて、「保護者・学校関係者・主治医らが一堂に会して情報を共有し、連携を図ることが大切だ」と述べ、講演を結んだ。

また、WPW症候群とQT延長症候群に関しては、「稀な疾患だが、全国で毎年1人程度、突然死を引き起こしている」と述べ、注意を促した。鮎沢教授は「学校管理下事故・災害共済給付制度」のデータを用いた突然死の実態調査の結果を紹介した(左参照)。

まず、学校管理下の心臓系疾患による突然死の発生状況については、「この30年間で発生率が3分の1に減少している」と述べ、検診などによる早期発見や医療の進歩が功を奏しているとの見解を示した上で、「何とか突然死ゼロを目指していきたい」と訴えた。

このうち、「先天性心疾患では、後天性心疾患や心筋症の比率が増加している」と述べた。その上で、突然死の発生数について、「最近では先天性心疾患と原因不明が減少し、後天性心疾患や心筋症の比率が増加している」と述べた。

このうち、「学校検診で新着者の特徴などを詳説した。併症、心筋症や心筋炎、心電図異常の期外収縮、頻拍症、WPW症候群、QT延長症候群といった主な心疾患の病態や治療法、ペースメーカー装着者の特徴などを詳説した。このうち、心房中隔欠損症については、「学校検診で新

また、WPW症候群とQT延長症候群に関しては、「稀な疾患だが、全国で毎年1人程度、突然死を引き起こしている」と述べ、注意を促した。鮎沢教授は「学校管理下事故・災害共済給付制度」のデータを用いた突然死の実態調査の結果を紹介した(左参照)。

このうち半数以上は、剖検や検診結果を再確認しても原因不明であり、不整脈の関与が示唆された。原因が判明した例では、心筋炎、冠動脈の先天異常、大動脈解離、心筋症といった4つの器質的疾患が大多数を占めた。

一方、学校でのAED(自動体外式除細動器)の使用について、「発症から作動までの所要時間は年々短くなっているものの、10分程度かかっている状況」と指摘。「発症後5分以内に作動させないと脳への後遺症などを防げない」と説き、「すべての学校関係者にAEDの使用法を周知

また、野球のボールなどが胸部に当たった衝撃をきっかけに致死的な不整脈を引き起こす心臓震盪についても言及。「5分以内のAEDの使用で救命できる可能性が高いが、病態については不明な点が多い」と解説した。

鮎沢教授は、「突然死を減らすためには、学校検診や事後管理の徹底はもとより、家庭や運動場、体育館にAEDを設置することが重要だ。また、トップアスリートなどのハイリスク者に対する超音波検査など精密検査の実施も検討していく必要がある」と述べた。

表 事故・突然死予防のために注意が必要な心疾患

1. 心筋症*	10. 突然死することがある不整脈
2. 大動脈弁狭窄	① 重症心室頻拍
3. 重症先天性心疾患の術後	② QT延長症候群*
4. 川崎病後遺症	③ 洞機能不全症候群
5. 急性(劇症型)心筋炎	④ 一部のWPW症候群(心房細動合併時)
6. 冠動脈奇形	⑤ プルガダ症候群
7. マルフアン症候群の大動脈病変*	⑥ ペースメーカー、植え込み型除細動器(ICD)装着者
8. 原発性肺高血圧	
9. 心臓震盪	

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江幡良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

「いま、健康とはなにか」テーマに

第56回 予防医学事業推進全国大会が開催

予防医学事業をさらに推進し 健康長寿社会の実現を目指す

予防医学事業中央会(中央会)、日本寄生虫予防会、神奈川県予防医学協会が主催する第56回予防医学事業推進全国大会が10月28日、神奈川県民ホールで開催された。今大会のテーマは、「いま健康とはなにか―21世紀の課題を探る」。大会テーマを受けて、県民公開講座では、記念講演、学術講演、文化講演が行われた。大会には、本会をはじめ中央会の全国支部で健康教育や健診活動に携わっている担当者、保健医療行政担当者、学校、地域・職域保健の専門家、市民ら約1200人が参加した。



「健康は、自分自身のものであると同時に社会の大切な財産です。国民一人ひとりが、生涯を通して適切な健康づくりに取り組み、健康長寿を実現したいものです。こうした思想を広く普及啓発するため、私たち保健医療従事者と県民、市民が一体となって『本当の健康』について今一度理解し、考えることが必要だと思っております」

開会の挨拶で、大会長の土屋尚神奈川県予防医学協会理事長は、このように大会テーマの意図について述べると共に、大会の開催に当たり、支援や協力を受けた関係者に謝意を表した(写真)。

また、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故に見舞われた今年多くの国民がこれまで以上に健康の大切さを痛

感じたことから、今大会では「健康で快適な暮らしを支えていくために、予防医学事業をさらに推進させ、健康社会の実現を目指していく」との大会宣言が採択された。

その後行われた予防医学事業の推進に貢献した人に対する表彰式では、感謝状が聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメーシング先端医療センター附属クリニックの福田護院長と松村株式会社松村千賀雄顧問に、中央会賞が栃木県保健衛生事業団の白河千秋副部長と神奈川県予防医学協会の根本克幸事業局長に、奨励賞が本会の安西康志課長と妹尾かおる主査ら30人に贈られた。

また、式典後に開催された県民公開講座では、適切な健康づくりの輪を広げていくための視点から、神奈川県保健福祉局の中沢明紀参事監による記念講演「健康とはなにか―住民の健康と行政の役割」、武庫川女子大学国際健康開発研究所の家森幸男所長による学術講演「都市型長寿の創生―世界調査でわかったみんなの健康づくり」、女優の小山明子氏による文化講演「二人三脚で乗り越えた介護の日々―今日も二人で」の3講演が行われた。

実現可能で有効な 乳がん検診システム

第21回 日本乳癌検診学会学術総会

第21回日本乳癌検診学会学術総会が、10月21日、22日、岡山県の岡山コンベンションセンターで開催された。

今総会のテーマは「実現可能な有効な乳がん検診システム構築へ向けて」で、検診システムに関するシンポジウムやワークショップ、ポスター討論などが多数行われた。このうち、大会テーマに即

して行われたシンポジウムでは、視触診検診を担当する医師の確保が難しく、予算面でも大きな負担になっている一方、マンモグラフィ(MMG)単独検診でも視触診併用検診と効果がほとんど変わらない結果が得られていることなどが報告され、MMG単独検診の実施に向けた議論が交わされた。

この他、シンポジウムではMMG検診の精度向上のための取り組みや超音波検査による乳がん検診実施のための課題、デジタル・マンモグラフィとモニター診断の必要性などに関する講演が行われた。また、ポスター討論では、本会の坂佳奈子部長が、東京都における住民検診と職域検診の現状について発表した。

産業保健フォーラムIN TOKYO 2011が開催

産業保健フォーラムIN TOKYO 2011(主催・東京労働局、東京労働基準協会連合会、労働者健康福祉機構東京産業保健推進センター)が10月25日、東京・江東区のティアラこうとうで開催された。会場では、「いま、役に

立つ心と体の健康増進のために」をメインテーマに3題の講演が行われた他、健康相談コーナー、健康測定コーナーなどが開設された。

このうち特別講演では「現場ですぐに展開可能なメンタルヘルス対策―現代型うつへの対応を含めて」と題し、筑波大学大学院の松崎一葉教授が講演を行った。

また、講演の合間に行われたリフレッシュ体操を、本会の健康運動指導士が担当し、指導を行った(写真)。参加者たちは、気持ちよさそうにからだを動かしていた。

健康相談コーナーでは、歯科相談、健康相談などのコーナーが設けられ、それぞれの専門家が来場者の相談に応え

お知らせ

第234回学校保健セミナー
自立に向けて子どもたちが身につけるべき3つのこと

1月16日(月) 14時～16時
東京・新宿区「ランドヒル市ヶ谷」

第234回学校保健セミナーが1月16日(月)14時から16時まで、東京・新宿区の「ランドヒル市ヶ谷」で開かれます。

低線量放射線の健康影響

第241回ヘルスケア研修会
健康影響

1月25日(水) 14時～16時
東京・千代田区「星陵会館」

第241回ヘルスケア研修会が1月25日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれます。「低線量放射線の健康影響―安心して暮らすために」をテーマに、鹿児島大学大学院医学研究科の秋葉澄伯教授が講演する。司会は本会の加藤京子保健師。参加費2千円。

放っておくと怖い 小児のメタボリック シンドローム

大関武彦／著



新刊紹介

小児の肥満は、成人の肥満と同様に、さまざまな健康障害を引き起こす。その約7割が成人肥満に移行す

ること大きな問題となる。本書を執筆したのは、厚生労働省「小児期のメタボリックシンドロームに対する効果的な介入方法に関する研究」主任研究者の大関武彦浜松医科大学名誉教授である。

本書では、小児肥満とメタボリックシンドローム(メタボ)の問題を最新の医学や科学的根拠に基づいて解説し、効果的な取り組みを示してい

る。その対策は、薬を飲めば治るような簡単なものではなく、「時間をかけて正しい生活習慣をつくり上げること」に解決の糸口がある。とし、家族全員で生活改善に取り組むことの重要性を訴える。

第1章では、小児の肥満の原因、身体的・心理的な弊害、小児メタボの診断基準などが解説されている。

続く第2章では、なぜ肥満

や内臓脂肪が問題となるのか、コレステロールや血糖、満やメタボの問題などが取り上げられている。

また、第3章から第5章では、食生活、運動、睡眠、メディアやゲームなどの生活習慣とメタボに関する最新の知見、生活改善のポイント、家族のサポートの在り方などが丁寧に紹介されている。

本書は、小学生、中学生向けに書かれたものだが、大人にも読み応え十分の内容だ。子どもの健康問題に携わるすべての大人に読んでほしい一冊である。

少年写真新聞社、B5判、1900円(税)



「自立に向けて子どもたちが身につけるべき3つのこと」

第234回学校保健セミナー

1月16日(月) 14時～16時
東京・新宿区「ランドヒル市ヶ谷」

第234回学校保健セミナーが1月16日(月)14時から16時まで、東京・新宿区の「ランドヒル市ヶ谷」で開かれます。

第241回ヘルスケア研修会

健康影響

1月25日(水) 14時～16時
東京・千代田区「星陵会館」

第241回ヘルスケア研修会が1月25日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれます。「低線量放射線の健康影響―安心して暮らすために」をテーマに、鹿児島大学大学院医学研究科の秋葉澄伯教授が講演する。司会は本会の加藤京子保健師。参加費2千円。

従来のCAVI・ABIに加え、 末梢動脈疾患(PAD) 診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)
VaSera VS-1500Aシリーズ
医療機器承認番号: 22100BZX00762000



●TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないVS-1500AE/ANもあります。

●負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。



CAVI ABI TBI



〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口 ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00
●医療機器専門メーカー **フクダ電子株式会社**